第6章 さらに活用したいとき

6-1 周辺機器との接続 …… 206
6-2 アナログ電話機の操作 …… 210
6-3 PHS の操作 …… 214
6-4 無線 LAN デュアル端末について …… 218

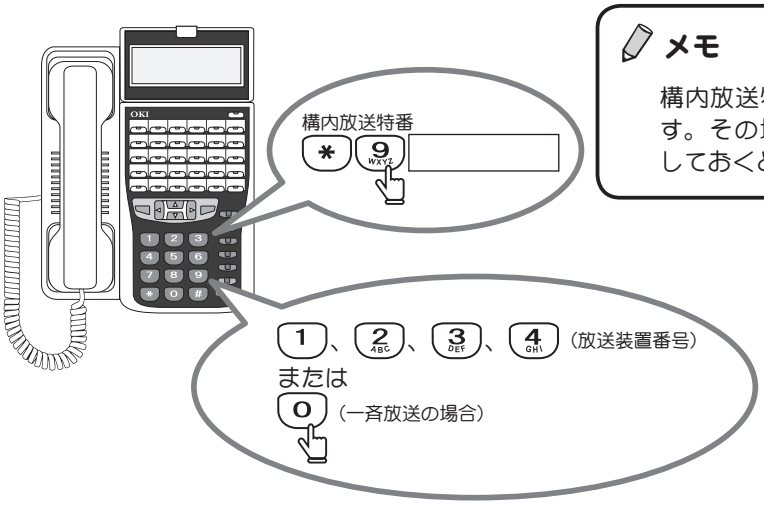
6-1 周辺機器との接続

電話機を構内放送、ドアホンと接続して使用することができます。

■ 構内放送装置との接続

外部の放送設備を利用して、電話機から構内放送ができます。放送装置は IPstage EX300/MX では 4 台まで、IPstage SX では 1 台まで接続することができます。構内放送との接続は、取扱店にご相談ください。

構内放送をする



メモ

構内放送特番が本書と異なる場合があります。その場合は、実際の特番を本書に記入しておくと便利です。

1 受話器を上げる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

受話器を上げると自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、操作手順 1 の前で 内線 を押します。

2 構内放送特番をダイヤルする

初期設定は ＊ 9 WXYZ です。

3 放送装置番号をダイヤルする

1 ～ 4 GHI：放送装置番号
0：一斉放送

チャイム音が流れます。

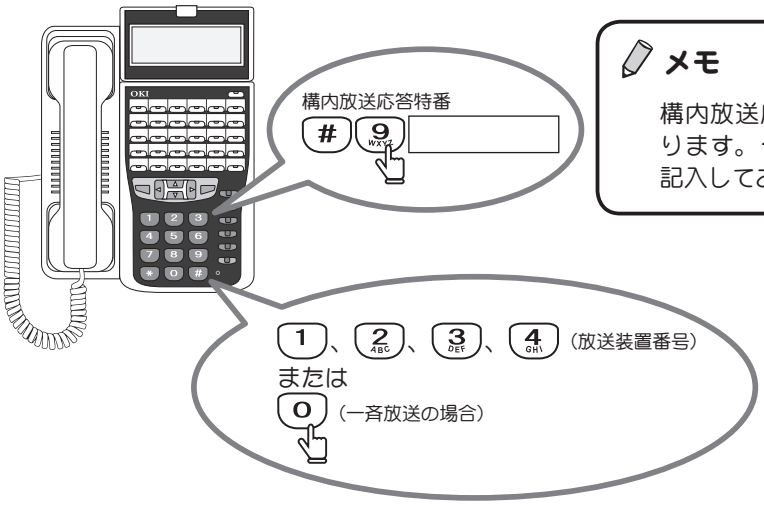
- 0 を押すと、すべての放送装置に接続されます。
- IPstage SX では、1 をダイヤルしてください。

4 受話器で呼びかける

- たとえば「営業一課の田中さん」と呼びかけると、構内放送のスピーカから呼びかけた音声が流れます（呼びかけるときに放送装置番号も伝えてください）。
- 相手が応答すると通話ができます（次ページ参照）。

5 放送を終えたら受話器を戻す

構内放送の呼出しを受ける



メモ

構内放送応答特番が本書と異なる場合があります。その場合は、実際の特番を本書に記入しておくと便利です。

1 受話器を上げる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

受話器を上げると自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、操作手順 **1** の前で内線を押します。

2 構内放送応答特番をダイヤルする

初期設定は #、9 WXYZ です。

3 応答する放送装置番号をダイヤルする

1 ～ 4 GHI：放送装置番号
0　　：一斉放送

構内放送をした人とつながり、通話できます。

- 0 を押すと、すべての放送装置に接続されます。
- IPstage SX では、1 をダイヤルしてください。

4 通話が終了したら受話器を戻す

メモ　番号入力をワンタッチで行うには

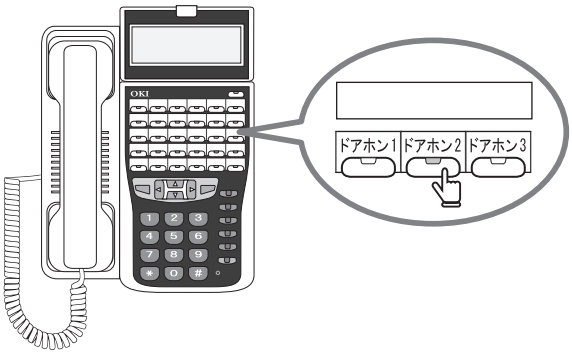
構内放送特番と放送装置番号をまとめてフレキシブルキーに登録すると、操作手順 **2** と **3** の操作をワンタッチでできます。「構内放送をする」の操作手順 **2** と **3** についても同様です。
フレキシブルキーに番号を登録する方法については、p.91「フレキシブルキーにオートダイヤルを割り付ける」を参照してください。

■ ドアホンとの接続

（ドアホン着信）／（ドアホンモニタ）／（ドアホン呼出し）

ドアホンからの呼出しを電話機で受けることができます。また、電話機からドアホンに呼びかけることもできます。

ドアホンは 4 台（同時通話は 2 通話）まで接続することができます。ドアホンとの接続は、取扱店にご相談ください。



メモ

- 使用するフレキシブルキーの位置は、電話機によって異なります。
- 電話機のフレキシブルキーの名称が、本書のものと異なる場合は、実際にご使用になる名称を本書に記入しておくと便利です。

例）訪問者

ドアホン

ドアホンの呼出しに応答する

ドアホンの着信音が「ピンポーン」と鳴ります。

1 受話器を上げて、ランプが点灯している [ドアホン] を押す

通話ができる状態になります。

2 通話が終了したら受話器を戻す

ドアホンで外の音声を聞く

ドアホンを使ってドアホンの周辺の音声を聞くことができます。

1 [ドアホン] を押す

外部の音声が「スピーカ」から聞こえます。

2 聞き終えたら [ドアホン] を押す

ドアホンを呼び出す

1 受話器を上げる

受話器から「ツーツー」と発信音が聞こえます。

2 ドアホンを押す

3 相手に呼びかける

扉の外の人とドアホンで通話できます。

4 通話が終了したら受話器を戻す

受話器を上げると自動的に外線に発信する設定（オフフック外線自動捕捉）をしている場合、操作手順 **1** の前で内線を押します。

6-2 アナログ電話機の操作

アナログ電話機には機能を割り付けるためのフレキシブルキーがありません。
このため、アナログ電話機を IPstage の電話端末として使用する場合、利用できるサービス機能に制限があります。また、利用できる機能も特番ダイヤルが基本となるため、マルチ・キーテレホン R の場合とは操作手順が異なるものがあります。
以下に、利用できるサービス機能および、マルチ・キーテレホン R との操作手順の違いについて、その概略を示します。

■ アナログ電話機で利用可能なサービス機能

アナログ電話機で利用可能なサービス機能を下表に示します。

機能名称	機能名称	機能名称
指定外線捕捉 (*)	割込み通話 (*)	グループ音声呼び
ARS 発信	内線相互通話	DGL/MSA
自動転送	ホットライン	ドアホン収容
保留	リダイヤル	FAX 接続 (*)
代理応答	放送結合	外線着信機能 (*)
手動転送	外線発信	ID 機能 (*)
会議通話	代理発信 (*)	ISDN DID 着信
DIL 着信	秘書機能 (*)	ISDN サブアドレス (*)
通話中着信	内線キャッチホン	
シリーズコール	トランクキャンプオン	

(*) 印がついている機能は、本書では特に扱われていないサービス機能です。

■ アナログ電話機に特有な操作手順

以下に、アナログ電話機に特有な操作手順を示します。
特番のダイヤルが必要な箇所は《 》で囲み、特番を記入するための欄［　　］を設けています。

記入例：［ １２ ］

ここに実際にお使いになる番号を記入しておくと便利です。特番については、取扱店にご相談ください。

メモ　フッキング操作とは

アナログ電話機の操作手順の中で、「フッキング操作を行う」と記載している箇所がありますが、以下のように操作します。

- フッキングボタンのある電話機
  フッキングボタンを押す
- フッキングボタンのない電話機
  受話器を置くところの上側にあるスイッチ（フックスイッチ）をポンと押します。

機能名称	操作手順
不在転送設定	① 待受中 ②［スピーカ］キーを押す または　受話器を上げる ③《不在転送先 & モード登録特番［　　］》をダイヤルする ④ 転送先の番号をダイヤルする ⑤ 転送先が内線以外の場合は、［#］を押す（または タイムアウト） ⑥［スピーカ］キーを押す または　受話器を戻す
不在転送解除	① 待受中 ②［スピーカ］キーを押す または　受話器を上げる ③《不在転送先 & モード解除特番［　　］》をダイヤルする ④［スピーカ］キーを押す または　受話器を戻す
保留	アナログ電話機からは回線保留はできません。以下のパーク保留機能を使用します。 ① 通話中 ② フッキング操作を行う ③《パーク特番［　　］（パークｎ対応特番）》をダイヤルする
代理応答	**●グループ内代理応答** ① 同一内線グループ内の内線電話に着信がある ②《内線代理応答特番［　　］》をダイヤルする ③ 通話する **●グループ指定代理応答** ① 他のグループの内線電話に着信がある ②《指定代理応答特番［　　］＋グループ番号［　　］》をダイヤルする ③通話する
手動転送	**●ダイヤル転送（転送先と話してから取り次ぐ方法）** ① 通話中 ② フッキング操作を行う ③ 転送先の内線番号をダイヤルする ④ 転送先の内線と通話する ⑤ 受話器を元に戻す（元の相手と転送先の相手が通話できる） **●キャンプオンリンギング（転送先と話さないで取り次ぐ方法）** ① 通話中 ② フッキング操作を行う ③ 転送先の内線番号をダイヤルする ④ 呼出し音を確認して受話器を元の位置に戻す（元の相手と転送先の相手が通話できる） **●チェンジオーバー（元の相手と転送先と交互に通話する）** ① 通話中 ② フッキング操作を行う ③ 転送先の内線番号をダイヤルする ④ 転送先の内線と通話する ⑤ フッキング操作を行う ⑥ 保留にした相手と通話を再開する
内線相互通話	アナログ内線電話機に対しては、音声呼出しができません。 アナログ内線からは音声呼出しの切替えはできません。
リダイヤル	① 受話器を上げる ②《リダイヤル特番［　　］》をダイヤルする

機能名称	操作手順
外線発信	**●ルート選択発信** ① 待受中 ② 受話器を上げる ③《回線捕捉特番［　　］》をダイヤルする ④ 相手先の電話番号をダイヤルする ⑤ 相手の応答を待って通話する **●任意外線発信** アナログ内線電話機にはフレキシブルキーがなく、外線を割り付けたキーがないため、任意外線発信はできません。
外線フッキング信号送出	① 外線と通話中 ② フッキング操作を行う ③《フッキング特番［　　］》をダイヤルする（外線にフッキング信号を送出する）
DGL/MSA	**● DGL/MSA グループ呼出し** 着信側電話機での操作 ① 着信音が聞こえる ② 受話器を上げる ③ 通話する
ドアホン収容	**●ドアホン呼出し** ① 待受中 ② 受話器を上げる ③《特番［　　］》をダイヤルする ④ ドアの外の相手とドアホン通話を行う **●ドアホン着信** ① ドアホンから着信がある ② 受話器を上げる ③ ドアの外の相手とドアホン通話を行う
FAX 収容	**● FAX 転送** ① 内線電話に FAX 着信がある ② 受話器を上げる ③ フッキング操作を行う ④《特番［　　］》をダイヤルする ⑤ ファクシミリ装置へ FAX が着信する
通話中着信	**●発信** ① 話し中の音が聞こえる ②《通話中着信特番［　　］》をダイヤルする ③ 相手の呼出し音が聞こえる ④ 相手が応答したら通話する **●着信** ① 通話中 ②「キャッチホン」の信号が聞こえる（他の内線から着信） ③ フッキング操作を行う ※この時、元々通話していた人は保留されています。受話器を元に戻すと呼び返され、元の通話状態に戻ります。
内線キャッチホン	**●着信** ① 通話中 ②「キャッチホン」の信号が聞こえる（他の内線から着信） ③ フッキング操作を行う ※この時、元々通話していた人は保留されています。受話器を元に戻すと呼び返され、元の通話状態に戻ります。

機能名称	操作手順
内線キャンプオンビジー	**●予約** ① 話し中の音が聞こえる ②《予約特番［　　］》をダイヤルする **●相手内線が空きになると** ① 自分の内線が鳴る ② 受話器を上げる（システムが通話相手を呼び出す） ③ 相手と通話できる
シリーズコール	① 待受中 ② 受話器を上げる ③ 内線番号をダイヤルする（例：100） ④ 呼出し音か話し中の音が聞こえる ⑤ ダイヤルキーで、話し中の内線の近くの内線番号の下 1 桁を押す（例：1） ⑥ 近くの内線（例では 101）が呼び出される ※ PB アナログ電話機からの操作はできません。 ※内線番号の下 1 桁の範囲の内線のみ呼び出すことができます。 （上記の例でいうと、内線 101 ～ 109 を呼び出すことができます）
トランクキャンプオン	**●予約** ① 話し中の音が聞こえる ②《予約特番［　　］》をダイヤルする **●内線空きの状態から任意の方路を予約登録する場合** ① 受話器を上げる ②《予約特番［　　］》をダイヤルする ③ 方路番号をダイヤルする **●内線空きの状態から登録を解除する場合** ① 受話器を上げる ②《予約特番［　　］》をダイヤルする **●外線・専用線が空きになると** ① 自分の内線が鳴る ② 受話器を上げる ③ ダイヤルトーンが聞こえる（ダイヤルできる）

メモ システム設定で、シリーズコールが「許可」に設定されているときには、「通話中着信」「内線キャンプオンビジー」「トランクキャンプオン」の機能は使用できません。システム設定の変更については、取扱店にご相談ください。

6-3 PHS の操作

IPstage の内線電話機として、PHS を接続することができます。
PHS には機能を割り付けるためのフレキシブルキーがありません。このため、IPstage の電話端末として PHS を使用する場合、利用できるサービス機能に制限があります。また、利用できる機能も特番ダイヤルが基本となるため、マルチ・キーテレホン R の場合とは操作手順が異なるものがあります。
以下に、利用できるサービス機能および、マルチ・キーテレホン R との操作手順の違いについて、その概略を示します。

メモ
- PHS をご利用になる場合、本章をお読みになる前に、必ず PHS に添付されている取扱説明書をお読みいただき、PHS、充電台、AC アダプター、電池パックなどの安全上のご注意や充電のしかたなどを理解してからお使いください。
- ここでは、PHS を IPstage に接続した内線電話機として使用する場合の操作について説明しています。その他の使い方については PHS に添付されている取扱説明書をお読みください。

■ PHS に特有な機能の紹介

● ファンクションボタンの利用

UM7588 にはファンクションボタンがあるため、ファンクションボタンに特番を登録して、ワンタッチで特番サービスを利用することができます。特番のファンクションボタンへの登録については、UM7588 に付属の『取扱説明書』を参照してください。

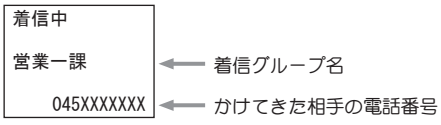
● 一斉文字メッセージ送信

IPstage Messenger アプリケーション（別売）を使用すると、パソコンから PHS に対して文字メッセージ（全角 45 文字まで）を送信することができます。メッセージは、同時に複数の PHS 対して送信することができます。
このサービスが利用できるのは、UM7588 および WILLCOM 製 PHS です。詳細は取扱店にお問い合わせください。

● PHS 一斉着信

システム設定によって、一般着信、DGL 着信、ドアホン着信を PHS に着信させることができます。複数の PHS へ着信させることができるこの機能は「PHS 一斉着信」といいます。着信のあった PHS では、どれか 1 台で応答することができます。
UM7588 では、PHS 一斉着信時に、ディスプレイに着信した回線やグループ名を表示することができます。また、着信音を回線やグループごとに変更することもできます。

PHS のディスプレイ表示例



■ PHS で利用可能なサービス機能

PHS で利用可能なサービス機能を下の表に示します。

機能名称	機能名称	機能名称
指定外線捕捉	代理発信	ISDN サブアドレス
ARS 発信	秘書機能	PHS 一斉着信
自動転送	トランクキャンプオン	PHS 圏外
保留	外線フッキング信号送出	PHS 個別着信
代理応答	グループ音声呼び	PHS 呼出信号音識別
手動転送	DGL/MSA	PHS 発信
会議通話	ドアホン収容	通話中情報転送
DIL 着信	FAX 接続	発信者番号通知
着信音識別	外線着信機能	PHS 圏外代行
内線相互通話	ID 機能	通話中着信
ホットライン	発信者番号通知	内線キャッチホン
リダイヤル	理由通知	内線キャンプオンビジー
放送結合	発信者番号表示・規制	シリーズコール
外線発信	ISDN DID 着信	

■ PHS 端末に特有な操作手順

以下に、PHS 端末に特有な操作手順を示します。
特番のダイヤルが必要な箇所は《 》で囲み、特番を記入するための欄［　　］を設けています。

記入例：［ １２ ］

ここに実際にお使いになる番号を記入しておくと便利です。特番については、取扱店にご相談ください。

機能名称	操作手順
個別着信	① PHS の着信音が鳴る ②［通話］キーを押す ③ 通話する （通話が終わったら、［電源］キーを押します）
PHS 一斉着信	① 自分の PHS が鳴動中（このとき他の PHS 端末、PHS 以外の他の端末も鳴動中） ② 自分の PHS の［通話］キーを押す ③ 通話する （通話が終わったら、［電源］キーを押します） ※鳴動音やネーム（発番号以外）をグループごとに変えることができます。
発信	**●一括ダイヤル（プリセットダイヤル）発信** ① 待受中 ② 相手先番号をダイヤルする ③［通話］キーを押す ④ 通話する （通話が終わったら、［電源］キーを押します） **●分割ダイヤル発信** ① 待受中 ②［通話］キーを押す ③ ダイヤルトーンが鳴っているのを確認 ④ 相手先番号をダイヤルする ⑤ 通話する （通話が終わったら、［電源］キーを押します）

機能名称	操作手順
転送	●口頭転送 ① 通話中 ②［保留］キーを押す ③《パーク保留特番［　　］》をダイヤルする ④ 転送先に口頭で連絡する（「○○さん△△番に外線です」） ⑤［電源］キーを押す （自分の通話を終わり、転送先で［通話］キーのあとパーク保留特番をダイヤルすると、相手先と転送先との通話になる） ●ダイヤル転送 ① 通話中 ②［保留］キーを押す ③ 転送先番号をダイヤルする ④ 転送先と通話する ⑤［電源］キーを押す （自分の通話を終わると、相手先と転送した先との通話になる）
不在転送設定	① 待受中 ②［通話］キーを押す ③《不在転送先 & モード登録特番［　　］》をダイヤルする ④ 転送先の番号をダイヤルする ⑤ 転送先が内線以外の場合は、［#］を押す（または タイムアウト） ⑥［電源］キーを押す
不在転送解除	① 待受中 ②［通話］キーを押す ③《不在転送先 & モード解除特番［　　］》をダイヤルする ④［電源］キーを押す
PHS 圏外転送	**● PHS からの転送先の登録** ① 待受中 ②［通話］キーを押す ③《不在転送先登録特番［　　］》をダイヤルする ④［＊］を押す ⑤ 転送先をダイヤルする ・内線の場合：《相手先内線番号》 ・外線の場合：［#］［0］《相手先番号》→［#］または［保留］キーを押す ・PBX の場合：［#］［2］《相手先番号》→［#］または［保留］キーを押す ・発信者選択：［＊］→［保留］キーを押す **● PHS 圏外転送モード登録／解除** ① 待受中 ②［通話］キーを押す ③《PHS 圏外転送モード特番［　　］》をダイヤルする **● PHS 圏外転送モード登録／解除（プリセットで行う場合）** ① 待受中 ②《PHS 圏外転送モード特番［　　］》をダイヤルする ③［通話］キーを押す （※）PHS 圏外転送モードが登録されたか解除されたかは音で判別できます。 登録されたときは「プーッ」と 1 回鳴り、解除されたときは「プップップッ」と鳴ります。
保留	**●保留操作** ① 通話中 ②［保留］キーを押す **●保留解除** ①［保留］キーを押す

機能名称	操作手順
通話中着信	**●発信** ① 話し中の音が聞こえる ②《通話中着信特番［　　］》をダイヤルする ③ 相手呼出し音が聞こえる ④ 相手が応答したら通話する **●着信** ① 通話中 ②「キャッチホン」の信号が聞こえる（他の内線から着信） ③［保留］キーを押す ※この時、元々通話していた人は保留されています。［電源］キーを押すと呼び返され、元の通話状態に戻ります。
内線キャッチホン	**●着信** ① 通話中 ②「キャッチホン」の信号が聞こえる（他の内線から着信） ③［保留］キーを押す ※この時、元々通話していた人は保留されています。［電源］キーを押すと呼び返され、元の通話状態に戻ります。
内線キャンプオンビジー	**●予約** ① 話し中の音が聞こえる ②《予約特番［　　］》をダイヤルする **●相手内線が空きになると** ① 自分の内線が鳴る ②［通話］キーを押す（システムが通話相手を呼び出す） ③ 相手と通話できる
シリーズコール	① 待受中 ②［通話］キーを押す ③ 内線をかける（例：100） ④ 呼出し音か話し中の音が聞こえる ⑤ ダイヤルキーで、話し中の内線の近くの内線番号の下 1 桁を押す（例：1） ⑥ 近くの内線（例では 101）が呼出される ※内線番号の下 1 桁の範囲の内線のみ呼び出すことができます。 （上の操作例でいうと、内線 101 ～ 109 を呼び出すことができます）
トランクキャンプオン	**●予約** ① 話し中の音が聞こえる ②《予約特番［　　］》をダイヤルする **●内線空きの状態から任意の方路を予約登録する場合** ① 受話器を上げる ②《予約特番［　　］》をダイヤルする ③ 方路番号をダイヤルする **●内線空きの状態から登録を解除する場合** ①［通話］キーを押す ②《予約特番［　　］》をダイヤル **●外線・専用線が空きになると** ① 自分の内線が鳴る ②［通話］キーを押す ③ ダイヤルトーンが聞こえる（ダイヤルできる）

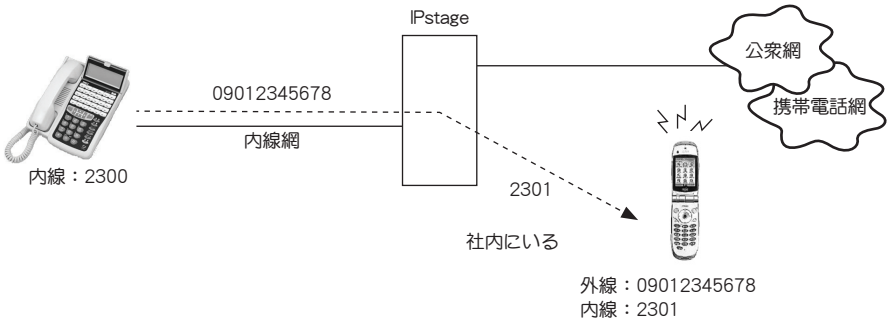
メモ システム設定で、シリーズコールが「許可」に設定されているときには、「通話中着信」「内線キャンプオンビジー」「トランクキャンプオン」の機能は使用できません。システム設定の変更については、取扱店にご相談ください。

6-4 無線 LAN デュアル端末について

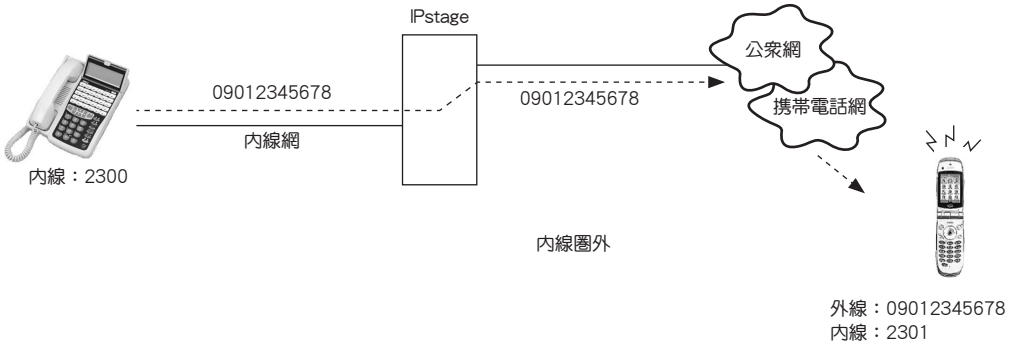
IPstage の電話端末として無線 LAN デュアル端末を使用すると、社内では内線、外出先では携帯電話として 1 台 2 役で使用できます。
無線 LAN デュアル端末を持つ相手へ電話する場合は、いつでも携帯電話番号でかけられます。相手が社内にいる場合は内線として接続され、外出先にいる場合は携帯電話網経由で接続されます。

※無線 LAN デュアル端末とは、無線 LAN と携帯電話網を利用できる電話機です。IPstage では、この電話機を無線 LAN 圏内では内線、無線 LAN 圏外では携帯電話として使用できます。

- 社内から無線 LAN デュアル端末へかける（内線として接続）

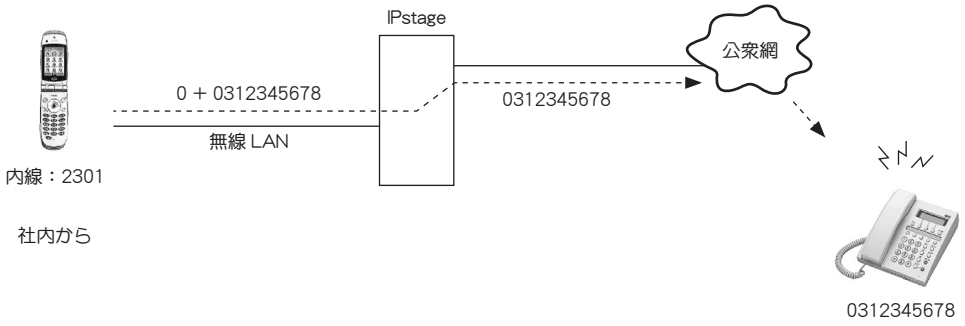


- 社内から無線 LAN デュアル端末へかける（携帯電話として接続）



無線 LAN デュアル端末で社内から外線へ発信する場合は、公衆電話網を使用するため、通信コストを削減できます。

- 社内の無線 LAN デュアル端末から外線へかける（公衆電話網で接続）



メモ

- 内線圏外の無線 LAN デュアル端末に対して内線番号をダイヤルしても、携帯電話網への接続は行われません。
- 無線 LAN デュアル端末に発信した後は、オートリピート操作では発信できません。
- リダイヤルで無線 LAN デュアル端末に発信して内線接続になった場合、クイックリダイヤルはできません。（キーを押しても何も起こりません。）
- 受話器を上げるだけで外線にかけられる電話機（オフフック外線自動捕捉）からは、無線 LAN デュアル端末に内線として電話をかけることはできません。